

復活祭第3の主日

携香女の主日

冒頭 P3 <赤本 P1 >

司祭「父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今もいつも世々に…」に続いて

聖歌「アミン」「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし…」3回

(♪) ハリストス^し死より^{ふっかつ}復活し、死を^し以て^し死を^{ほろ}滅し、^{はか}墓に^あ在る^{もの}者に^{いのち}生命を^{たま}賜えり。

日本語
1



ハリストス 死より 復 かつ し 死を 以て 死を 滅 ぼ し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

日本語
2



ハリス トス 死 よ り ふ っ かつ し
 死 を 以 て 死 を 滅 ぼ し
 は かに ある も の に い の ち を た ま え り

スラブ語
3

スラブ語



ハリス トス ヴオスレ セ イ^スメル ヴイ ^スメル チ ユ ^スメル^テ ポ^ラッ
 イ ス シ^チム ヴオ ラ ベ ッ ジ ヴ^オツ ダ ロ ヴ^ア

トロパリ、コンダク

P8 <赤本 P9-13>

主日 2 調「死せざる」、「尊きイオシフ」、光栄は、コンダク「ハリストス神よ」、今もコンダク「死せざる」



死せざる いのちやな^レじ死にく^レたりしと き
 神 の 性 の ひかりにてじごくをころせ り
 死せしものを地下より復活せしめしと き
 天軍みな呼^レで言え り 生命を賜^レうの主^レわが^レかみ^レや
 光栄はなんじにき す

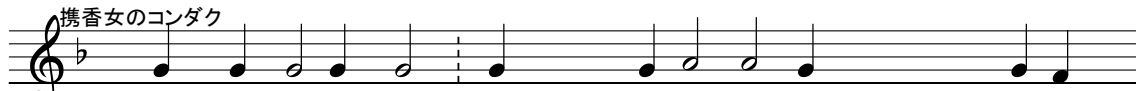
続けて



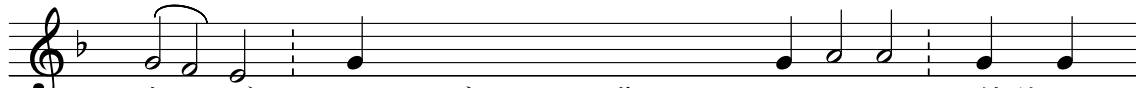
尊 --- と --- き --- イーオ ---
 --- シフは --- なんじのいさ --- ぎよき --- 身 --- を
 木 --- よ --- り 降ろ --- し --- きよ --- きぬ --- の --- に
 つつ --- み 香 --- 料 --- に --- て --- おお --- い --- あら --- た ---
 な --- る --- は --- か --- に --- お --- さ --- め --- た --- り



光えいは父と子と聖^{とん}神に帰-す



携香女のコンダク
ハリストスかみよ 爾は復活によつて携香女に慶べよと



告-げ 原母エヴァの 悲しみを止どめ 使徒に



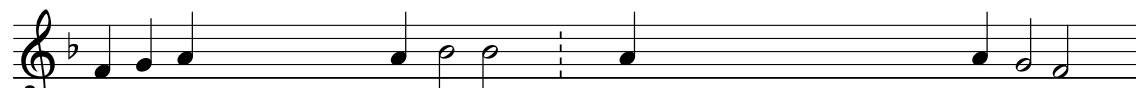
伝えんことを命じた-り 救世主は墓より復かつせりと



いまもいつも世世に アミン



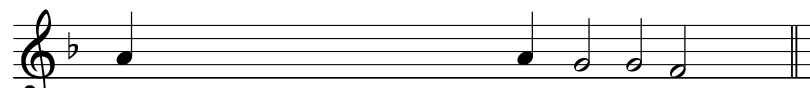
復活祭のコンダク
死せざるハリストスかみよ、なんじは^{はか}墓に くだれども、



地ごくの力をやぶり、 勝つものとして復活せり、



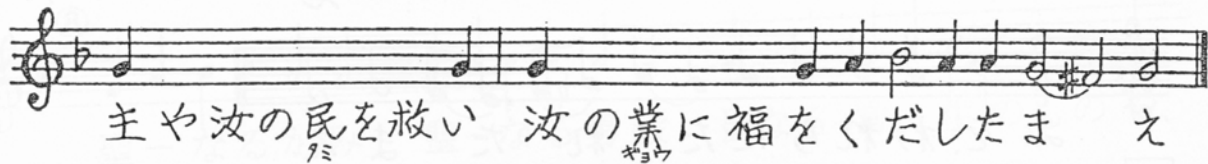
携香女に^{よろこ}慶べよと言ひ、 爾の使徒に平安をあたえ、



滅びしものに 復活をたまえり。

【主や敬虔なる者】【聖なる神】へ戻る

6調 主よ爾の民を救ひ、爾の業に福を降し給へ。
 (句)主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が為に黙す母れ。



聖使徒行実の読み (6:1 ~ 7)
 謹みて聴くべし

彼の日、門徒、益、加はりしに、「エルリニスト」がエウレイ人に對して怨言せし

ことあり。彼等の寡が日日の施濟に於て軽んぜられし故なり。十二の使徒は

大数の門徒を招きて曰へり、

『我等、神の言を舍きて、食卓の事を務むるは、宜しからず。故に、兄弟よ、

爾等の中より、善き證を得、聖神と智慧とに満てられたる者、七人を擇べ、我等、

之を立て、此の事を司らしめ、我等は、専ら祈祷と傳教とを務めん』。

此の言は、衆民に悦ばれて、遂に、信と聖神とに満てられたる人、ステファ
 ン、又フィリップ、プロホル、ニカノル、ティモン、パルメン、及びアンティオヒヤの

進教者ニコライを這びて、之を使徒等の前に立て、彼等、祈祷して、手を其上に

の按せたり。

神の言、増、長じ、門徒の數、甚イエルサリムに増加し、司祭の中にも多

く教に順ひし者あり。

アリルイヤ 8調

主よ爾はすでに憐れみを爾の地に施し、イアコフのとりこを帰せり。(楽譜次ページ)

(句) 慈憐と真実とは相交わり、義と和平と相接吻せん。



福音の読み

マルコ伝 (15 : 43 ~ 16 : 8)

彼の^か時、アリマフェヤの人、イオシフ^{どうとぎしみずか}、貴き^{くに}議士^ま、自らも神の國^{きた}を俟^{きぜん}てる者は、來り、毅然

としてピラトの許^{もと}に入りて、イイススの^{しかばね}屍^{そのすで}を求めたり。ピラト、其已^{あやし}に死せしを奇^{あやし}み、

百夫長^{ひやくふちようめ}を召して、『彼^{ひやくふちよう}、死して久し^{これ}きか』と問ひ、百夫長^{ひやくふちよう}より之^{しかばね}を知りて、屍^{しかばね}をイオシフに

與^{あた}へたり。彼は、布^ぬを買ひ、之^かを下^{これ}して布^{おろ}に裹^ぬみ、之^{つつ}を磐^{これ}に鑿^{いわ}ちたる墓^{うが}に置き、石^いを墓^{うが}の

門^{まるば}に転^{まろば}せり。マリヤ「マグダリナ」及びイオシヤの母マリヤは、彼^{とこ}を置きたる處^{とこ}を見たり。

安息日^{スポタ}、過ぎて、マリヤ「マグダリナ」、イアコフの母マリヤ、及びサロミヤ、香料^かを買ひたり。

往^ゆきて、イイススに罌^ぬらん爲^{ため}なり。七日^{なぬか}の首^{はじめ}の日^{はなはだ}、甚^{はなはだ}早く、墓^{きた}に來^ひる、日^いの出づ^{ころ}る頃^{ころ}なり。

相^{あい}語^{かた}りて曰^いへり、

『誰^たか、我等^たの爲^めに、石^いを墓^いの門^いより移^いさん』。

目^あを擧^あげて、石^すの、已^すに移^すされたるを見る。蓋^{けだし}、其石^{その}は甚^{はなはだ}大^{おおい}なり。彼等^い、墓^いに入りて、

白衣^{はくい}を衣^きたる少^{しょう}者^{しゃ}が、右^{かた}の方^がに坐^ざせるを見て、駭^{おどろ}けり。彼は、之^{これ}に謂^いふ、

『駭^{おどろ}く勿^{なか}れ。爾等^{てい}は、十字架^{てい}に釘^{てい}せられしナザレトのイイススを尋^{たず}ぬ。彼は、復活^こして、此^こ

に在^あらず。觀^みよ、此^こは、彼^{とこ}を置^{とこ}きたる處^{とこ}なり。往^ゆきて、其^{その}門徒^つ、及びペトルに語^つげて言^いへ、

『彼は、爾等^{さき}に先^{さき}だちて、ガリレヤ^ゆに往^ゆく。爾等^{かしこ}、彼處^{おい}に於^{おい}て彼^{その}を見ん。其^{その}爾等^{その}に言^いひしが

如^{ごと}し』と』。

婦^{おんな}、急^いぎ出^いで、墓^{はし}より奔^{おの}り、戦^かき、且^{おどろ}つ驚^{いちごん}きて、一^つ言^{おそ}も人^{ゆえ}に語^いげざりき。懼^{おそ}れしが故^{ゆえ}

なり。